



2021年12月1日発行
1947年10月27日
第3種郵便物認可
発行所/日本YMCA同盟
東京都新宿区本郷町 2-11
THE YMCA 神戸版
神戸YMCA
〒650-0001
神戸市中央区加納町 2-7-11
Tel 078-241-7201
Fax 078-241-7479
www.kobeymca.org
発行人/井上 真二
編集人/松森正樹
印刷/南わかばやし印刷

年間聖句 「光あれ。」 創世記 1章3節

常議員 家山華子さん (日本基督教団箕面教会 牧師)

小さい頃、埼玉に住んでいた私の家族のところに、大阪から祖母が遊びに来てくれた。祖母が到着するより先に、お土産の詰まった段ボール箱が届いた。私はそれを空けるのがいつも楽しみだった。今大人になって振り返ると、祖母が自分の娘家族の家にどんな思いで来てくれていたのか、少しは分かるように思う。しかしその時の私は、祖母の愛をただ喜んで受け取っていただけだった。クリスマスは、すべての人に愛が届く時。でも、その愛がどんなものなのかを、わたしたちは知らない。

クリスマスの夜、イエス・キリストはお生まれになった。そのことを、聖書はこんな不思議な言葉で表現している。「言は肉となって、わたしたちの間に宿られた」(ヨハネ1:14)。キリストは、おでこに「肉」と書かれたキン肉マンではない。わたしたちを越える神さまのもとから、キリストは来られた。そのことが、わたしたちにとって慰めとなる。

新型コロナの影響が始まって以来、わたしたちの生活は一変した。出かける時にはマスクをして、色々なところで手指の消毒をして、人との距離を保たなければならなくなった。会いたい時に、人と会えない。楽しみにしていた行事を中止にせざるを得ない。これからどうやって歩いて行ったらいいのか、混迷の中に放り出された。わたしたちの力ではどうすることもできない状況に置かれた時、人間の限界を超える存在が、わたしたちを越えるところから、わたしたちを訪ねて来てくださった、という言葉が、混迷の中を生きる力となる。

キリストは、わたしたちを越える力をもっているだけではない。わたしたちのところに訪ねて来て、一緒に弱くなってくださる。先の見えない暗闇の中に一緒に留まってくださる。一緒に苦しみ、悩んでくださる。不安な気持ちを受け止めてくださる。お腹がすいている時に、パンを分けてくださる。失敗し、悔やみ、落ち込んでいる時に、新しい人生をやり直すよう、背中を押してくださる。これからどうしたらいいのか、途方にくれ

「すべての人に愛を届ける」 クリスマスメッセージ

ている時に、道を示してください。「ただわたしを信じなさい」と。そのようにして、キリストは、わたしたちがひとり残らず神さまに愛されていることを、わたしたちに示して下さるのだ。ご自分の命を差し出すほどに、わたしたちは大切な、かけがえない存在なのだと、わたしたちに伝え続けてくださる。変わることはない神さまの愛が、わたしたちのところに届けられた。それがクリスマスの喜び。

クリスマスは、わたしたちに届けられた神さまの愛を、他の人に届けに行く時でもある。人間を越える神さまのもとから、キリストがわたしたちのところに来てくださったように、わたしたちとは異なる場所に住む人、今まで行ったことのない所にいる人、訪ねて行くには勇気のいる人のところへ、愛を届けに行くことに、新たにチャレンジしてみてもよいのではないだろうか。神さまがその人を愛しておられる。その気持ちをもって訪ねて行くなら、きっと、わたしたちの喜びも、より一層大きなものになるだろう。

苦しみ、悲しみ、悩み、迷い、わたしたちは賢明に生きている。そんなわたしたちのところに、暗闇の中の光として、キリストは来られた。世界中の人々が、愛されていることを信じてことができますように。ひとりひとりに未来を生きる力が与えられますように。



快挙!!! 全国シニアマスターズ体操選手権大会 団体総合2位

Pick up



9月25日(土)に開催された全日本シニアマスターズ体操競技選手権大会で、いつも神戸YMCAの体育・体操指導をしてくださっている加藤まどかさん、野村沙矢さん、中村優月さんのチーム『兵庫フェニックス』が女子団体総合2位の快挙を成し遂げられました。個人でも野村沙矢さんは年齢別個人総合4位、30代種目別床・跳馬で3位受賞。中村優月さんは個人総合2位、種目別床・平均台では優勝されました。3人のリーダーの皆さんは長年、須磨・学園・保育園・西神南等で幼児体育・体操クラブ等で熱心に指導をしてくださっています。

新しい年に向かって

日本YMCA中期計画

会長 中道 基夫
総主事 井上 真二

日本のYMCAは、「日本YMCA同盟中期計画(2014-2016) YMCAブランドの再生」を策定。2016年にはブランドコンセプトを取り決め、2017年には「日本YMCA中期計画(2017-2020) YMCAブランドの革新による胎動から躍進へ」に基づき、新しいロゴとスローガンを社会に向けて発信し、事業への展開、次世代のリーダー養成、マネジメント強化と組織変革、ユースエンパワーメントなど6項目にわたり中期計画を進めてきました。ところが、2020年を迎え歴史的な世界同時パンデミックによってもたらされた世界規模の危機のなかで、YMCAも経済的打撃を受けると共

にこれまでのブランディングの内実が激しく問われています。

ただ、YMCAはこの闇ともいべき状況の中でミッションという一つの光を持っています。この分断の時代に立ち向かうために、YMCAは「A」(アソシエーション)という人々を結集してきた実績があります。このYMCAのミッションと強みが持つレジリエンス(回復力)を信じ、ポジティブネットを拡張するために、日本YMCA同盟協議会は、以下の5つの項目を日本YMCA中期計画(2021-2023)として決めました。アフターコロナ、ニューノーマルの時代に、もはや2020年以前の

YMCAの延長線上に戻ることはできません。YMCAのレジリエンスは、わたしたちを新しいYMCAへと導いてくれると信じています。

Positive well-being
Youth Empowerment
Technology for social inclusion & diversity
Partnership
Change Agent

「つながる」場所

ウェルネスセンター

「健康とは、病気でないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態にあることをいいます。(日本WHO協会訳)」というのがWHOの定義する「健康」です。海外では運動が当たり前であり、愛情表現も頻繁に行われます。それに比べて、日本人は民族的文化である奥ゆかしさから、人と目を合わせる時間が短く、ハグや握手も少ないため、幸福を感じるセロトニンやオキシトシン、ドーパミンが少ないと言われています。また、スマートフォン一人一台が当たり前の今日、人々の関心は潜在的にスクリーンの向こう側に向けられており、同じ空間にいな

ながら、同じ世界にいないようです。33年前の神戸に新しい都市が出来たと同時に、YMCAもその土地に与えられました。学園都市のウェルネスセンターには、33年前から同じ世界で生きることを楽しむ仲間がいます。新しく来た人を暖かく迎え入れ、だれでもラケットボールに誘い、お気に入りのスタジオプログラムをお勧めし、他者に興味津々です。今必要なのはそんな「つながる」場所ではないでしょうか。ウェルネスセンターは身体を動かすだけでなく、肉体的にも、精神的にも、社会的にも満たされる場所です。ぜひ一度お気軽にお越しください。



ウェルネスセンター
学園都市は
こちらから。



仲間と力を合わせて創る

神戸YMCA高等学院

10月16日(土)、西神戸YMCA学園都市会館のバザー『ワイワイまつり』に、高等学院は学院祭として参加しました。第20回目となる今年、は、待望の対面での開催です。

昨年度は、コロナ禍において初のリモート開催でしたので、お客さまを迎えるの店舗出店は2年ぶりです。お祭りの雰囲気を感じるのは、初めての生徒がほとんど。各学年に分かれ、それぞれはりきって準備しました。三年生は、こどもたちに大人気の「射的」、二年生は、鬼の絵が描かれた的を作った「まとあて」と「紙飛行機とばし」、一年生は「ボウリング」コーナーでした。

こどもたちのために、景品のバッジやアクセサリを、放課後に皆で手作りするなど準備は万全。本番も、入場制限のある中、たくさんの小さなこどもたちが途切れることなくやってきて、大いに楽しんでいただくことが出来ました。生徒たちもまた、生き生きと、お客さまとのやりとりを楽しんでいました。さまざまな行事が自粛となる中、久しぶりに皆と力を合わせて創ることの豊かさを感じられた一日でした。



西神戸YMCA学園都市ワイワイまつりのご報告

日時:2021年10月16日(土)10:00~15:30
場所:西神戸YMCA学園都市会館

天候にも恵まれ、年に一度のチャリティーバザーであるワイワイまつりが行われました。

昨年は初めてのコロナ禍で完全オンラインでの実施となりましたが、今年度は入場を50分毎に完全に入れ替える5部制として会館にて実施。会館に滞在する人数を制限しながら、ゲームコーナーやステージなど、交わりのひと時となりました。まだまだ予断の許さないコロナ禍にあつて、飲食のブースは実施できませんでしたが、それでもこどもたちは遊びに夢中になっていました。

事前販売の時点で2,000枚が売切となったラッキー抽選会は、一斉に会場で行うことはできませんので、昨

年同様YouTubeでの限定LIVE配信となりましたが、会社のユースリーダーも昨年よりオンラインに慣れている様子が印象的でした。多くの協賛企業や会員の皆さまのお支えもあり、のみの市も実施できました。

のみの市や入場券、抽選券、こども園の持ち帰り用手作りおやつなど、総売り上げは558,350円で、支出の105,215円を差し引いた収益は453,135円となりました。

収益金は、国際協力募金・災害復興支援募金・地域の未就園のこどもたちのプログラム支援に捧げられます。

コロナ禍にあつてもできる形を工夫してくださった実行委員の皆さまや、お支えいただいたすべての方々に感謝し、ご報告とさせていただきます。



R E P O R T

西神戸YMCA幼稚園

YMCAデー

10月23日(土)、運動会に代わるプログラムとして『YMCAデー』を全園児と保護者の方々にも参加していただき、安全に留意しながら開催しました。

『YMCAデー』は、Y(わいわい) M(みんなで) C(しっかり) A(あそぼう)がテーマで、「やって楽しい!観て楽しい!」プログラムが盛りだくさん!

年少組の遊びは、色どろぼうから『色』を取り戻そうというストーリーです。『色』を取り戻す(集める)ことよりも「レインボービーム」でどろぼうと戦うのに夢中な子どももいて、可愛い勇姿に感動を覚えました。

年中組の遊びは、仲間と協力してジャングルの奥深くにあるバナナをみつけてゲットするストーリーです。4人ひと組で仲間と協力する姿に成長の喜びを感じました!

年長組の遊びは、リレー。走る順番やチームを毎日毎日、考え、話し合い、勝つための作戦を練りました。勝負だけではなく「全員で」「つなげる」「応援する」「信じる」という経験をしました。

それぞれの組で多くのドラマがあり胸が熱くなりました。一喜一憂して「わいわい みんなで しっかり あそぶ」。こどもたちの姿は「本気」で「本物」でした。



須磨センター学童保育クラブ

お出かけ

コロナ禍ですので、今までと同じように行事できませんが、今年も恒例行事である「お出かけ」を実施することができました。特に3年生以上は、高学年らしく自分たちで計画を立てています。選択できる3日程の中から「いつ出かけるか」「誰と出かけるか」「どこへ行って、何をするか」を自分たちで話し合って決めます。決まっている条件は“歩いて行って、歩いて帰る”ということだけです。一番歩いたグループは2万歩を超えていました!

何度も話し合い、内容がたびたび変更になるこ

ともあれば、意見がぶつかってケンカをすることも少なくありません。時にはお出かけ当日に意見が食い違い、内容が変わることもあります。リーダーたちは介入しすぎないように見守っています。こどもたちは計画を立てる中で、他者を受け入れ、相手に受け入れてもらう喜びを体験します。また、自分たちで決めることができる自由を味わいながら、その責任も受け入れます。今年もこの体験を通して、こどもたちは心も身体も大きく成長したと感じます。



神戸市立須磨体育館

地域とともにこどもたちの成長を見守る

須磨体育館のミニバスケットボール教室は、毎週1回、小学校1~3年生と小学校4~6年生に分かれて練習をしています。低学年のクラスではボールに慣れるところからバスケットボールというスポーツを楽しむよう取り組んでいます。高学年になると基礎練習からゲームまで、こどもたちが目標をもってバスケットボールに取り組んでいます。

こどもたちが練習の成果を発揮する機会として、近隣小学校(地域スポーツクラブ)のチームと定期的に交流試合を行っています。地域との交流を深め、バスケットボールを通じてこどもたちを共に見守ってい

くことを目的としています。

また、教室には卒業したこどもたちもリーダーとして帰ってきてくれています。この場所で育ったこどもたちが大きく逞しくなってリーダーとして帰って来て「リーダーもここでバスケしてたんだよ!」とこどもたちに話してくれます。YMCAの活動が地域に根付き、長いスパンで地域とともにこどもたちの成長を見守れることを嬉しく思います。残念ながら交流会はここ数年、コロナ禍で開催を見送っていますが、こどもたちにとっても地域にとっても貴重な機会をこれからも継続して提供していきたいと思っています。



こくさいのまど

国際協力募金活動報告 東エルサレムYMCAへの活動支援

2002年から現在まで、神戸YMCA国際協力募金から、パレスチナに正義ある平和と希望が訪れることを願って、日本YMCAを通じてパレスチナにある「東エルサレムYMCA」の活動支援を行っています。

東エルサレムYMCAは1949年に難民支援のためにパレスチナの人々が設立しました。イスラエルによる占領下で難民となったこどもや大人のための職業訓練や傷ついた人々のためのリハビリテーション施設等を中心とした活動を展開しています。

神戸YMCAは、2002年に激化したパレスチナ情勢を受けて「平和を創り出す集会」を開催し、現地の状況を学び、募金での支援を始めました。また東エルサレム

YMCAとパレスチナYWCAが行っている、オリーブ植樹プログラムを支援しています。パレスチナの人々にとってオリーブは長い歴史の中で世代を通じて大切に守り育てられてきました。しかし、イスラエルの入植地拡張により強制的に根こそぎ引き抜かれています。再びオリーブを植えることで自分たちの土地を主張しています。

世界とのつながりの中で、これからもパレスチナにおけるYMCA活動に関心を持ち行動していきたいと思っています。



JOINT ADVOCACY INITIATIVE (JAI): 東エルサレムYMCAとパレスチナYWCA共同事業。このサイトで、神戸YMCAがこれまでに植樹した場所が検索できます。

<https://www.jai-pal.org/>



キャンプ連載 「私たちはどこから来て、どこへ行くのか？」

<存在と奇跡～ある高校生からの問いへの僕からの手紙>

キャンプディレクター
阪田 晃一



「人間が生きている意味は何ですか？」

「僕はこの呼びかけに、できる限り誠実に向き合おうと思う。この深淵なる問いに応えるためには、僕たちはなぜ存在しているのか、いやそもそも世界はなぜ存在するのかを問わずにはいられない。僕たちは問える存在であるが故に、問われる存在でもある。だから悩む。

“人間である”、僕はそう口にする、自己から離れたような気分になる。僕たちはただ存在している。だから僕は、僕が立てた問いから出発したい。

僕は人間である前に、男である前に、既に存在している。さっとあなたも、人間である前に、女である前に、既に存在している。本当は「なにもでもない」存在として、僕たちは共にこの世界に存在している。

あなたの学校には、幽霊がいると言っていたね。僕もそう感じる。あの校舎に入ると、確かにそこに存在していたなにかを感じる。もし僕たちが、目の前に見えるものだけしか見えない目を、手に触れ得るものしか感じ得ない手を、ともに開くことができるなら、そこに存在していたなにかと繋がれることがあるのかもしれない。なぜなら存在していたという事実は今も存在するのだから。



僕たちの「生」は「死」を含んでいる。あらゆる存在と絡み合っている僕たちの「生」、つまり「死」の先には、たくさんの「生」が予期されている。

いま僕は、ずっと飼っていた犬が死んでいく傍にいる。友の愛する人が新しい命を生もうとしている、その途上を案じている。死という地平から、赤子が抱き上げられたとき、世界が押し寄せてくる。

こんなにも儚い世界がなぜ存在しているのか？僕はそう考える。すると世界が奇跡のように浮かび上がってくる。この世界が僕たちのために存在しているのなら、すでに僕たちはかけがえのない「生」を生きている。

人間が生きている意味は何なのか？それはこの奇跡を知るためなのかもしれない。

もし確かなものがなくて不安に思っているなら、僕たちの周りにはあらゆる存在がただ存在している（存在していた事実も含めて）、そのことを思い出して欲しい。目に見えるものは過ぎ去り、形あるものは消えていく。でも僕がこうしてあなたに手紙を書いているように、誰かを思う気持ちは確かに存在する。」

神戸YMCA三宮会館協同事業者

「ライフ&シニアハウス神戸北野」のご紹介

ライフ&シニアハウス神戸北野 事業所長 土本佳寿子さん

ライフ&シニアハウス神戸北野を運営している株式会社生活科学運営は、2013年より長谷工グループの事業会社として高齢者住宅を運営してきましたが、2021年10月、「長谷工シニアアウェルデザイン」となりました。新社名の「長谷工シニアアウェルデザイン」は、「ここに入居して良かった」と思っただけのよう、入居者の皆さまそれぞれの人生の集大成を演出(=デザイン)する会社でありたいという思いと、働く従業員それぞれの働き方やキャリアをデザインできるように、そして自らでデザインした未来を応援する会社でありたいという二つの思いを込めています。コロナ禍では、なかなか思うように未来を描くことが難しくなっていますが、できる範囲で、小さな喜びからでも入居者の皆さまが笑顔になれる演出ができればと思います。最近では、6F庭園のガーデニングを久々に入居者の皆さまと一緒にすることができました。また、YMCAの皆さまとの交流ができ、生活の彩りの一片を飾ることができることを期待しています。



神戸YMCAの使命 (日本YMCA基本原則)

- イエス・キリストの愛と奉仕の生き方に学びます。
- すべての人びとの全人的な成長を願い、いのちを守り育てます。
- 人権を守り、喜びと痛みを分かちあう社会をめざします。
- 世界の人びとと共に、平和の実現に努めます。

神戸YMCAの願い (日本YMCA中期計画2020)

すべての「いのち」が光り輝くように、これを守り育てます。そのための活動に世代を超えた市民の参加を求め、その活動を通して新しいコミュニティを創造します。

ファミリーウエルネスセンター
ランゲージセンター
専門学校
西宮YMCA
余島野外活動センター
デイキャンプ&コミュニティサービス(兼キャンプ事務局)
国際・奉仕センター
ウエルネスセンター学園都市
西神戸YMCA
神戸YMCA高等学院
YMCAおひさま

☎078(241)7202
☎078(241)7204
☎078(241)7203
☎0798(35)5987
☎0879(62)2241
☎078(241)7216
☎078(241)7204
☎078(793)7401
☎078(793)7402
☎078(793)7435
☎078(793)9077

西神南YMCA
須磨YMCA
YMCA保育園
西宮YMCA保育園
西神戸YMCA保育園
神戸学園都市YMCAこども園
神戸YMCAちとせ幼稚園
YMCAちとせ保育ルーム
西神戸YMCA幼稚園
西宮つとがわYMCA保育園
あかしこども広場
学園都市YMCA保育ルーム

☎078(993)1560
☎078(734)0183
☎078(794)3901
☎0798(35)5992
☎078(792)1011
☎078(791)2955
☎078(732)3542
☎078(786)3821
☎078(997)7705
☎0798(26)1016
☎078(918)6355
☎078(794)3045



感謝・寄附

(敬称略、順不同)(前号掲載以降~10/20現在)

寄附

澤井 恵子、原 寛、安宅 則夫、美崎 晋、
松永 今日子、藤岡 嘉明、西宮ワイズメンズクラブ、
芦屋ワイズメンズクラブ、
社会福祉法人光朔会オリンピア 山口 元

学生生活支援募金

松井 千鶴子、川原 真、
国際ロータリー第2680地区ローターアクト

国際協力募金

松田 道子、佐野 信三
この他にも、多数の募金・寄附をいただいております。
感謝をもってご報告します。

ポジティブネットYMCA国際協力募金 ミャンマー緊急支援報告

日本のYMCAで全国に呼びかけられた支援募金は71万7052円となり、国際協力資金と合わせて1万ドルを支援団体「ビルマ・プラットフォーム」に送金しました。皆さまのご協力に感謝申し上げます。なお、神戸YMCAは2020年度国際協力募金より15万円を捧げました。私たちは、これからもミャンマーの人々と連帯し、祈りを合わせたいと思います。

日本宝くじ協会よりテントのご寄贈

地域の子どもたちやご家族、また地域活動に役立つことができるようにと一般財団法人日本宝くじ協会が行なっている公益法人などが行なう公益事業への助成により、集会用テント2張と宿泊用テント1張を神戸YMCAに寄贈されました。YMCAの各拠点やその周辺での地域活動の際に有効に活用させていただきます。心より感謝申し上げます。

